

CONDÉ NAST

JAPAN

報道関係各位
プレスリリース

2018年2月1日
コンデナスト・ジャパン

コンデナスト・ジャパン ハラスメント問題に取り組むための行動規範策定について

世界で最も影響力のあるファッションタイトル『VOGUE』の日本版『VOGUE JAPAN』や、『VOGUE Girl』『GQ JAPAN』『WIRED JAPAN』を日本で展開するプレミアム デジタル パブリッシャー、合同会社コンデナスト・ジャパン（東京都渋谷区、社長兼職務執行者 北田淳）は、セクシャルハラスメントの問題に取り組むために、コンデナスト・インターナショナルが策定した行動規範を、今日から実施することを発表いたしました。行動規範は、ベンダーやパートナーとのガイドラインを提示し、安全で敬意を払う環境を作り出すための規範を概説します。コンデナスト・ジャパンが主体となって行われる全ての撮影は、次のガイドラインに従って実施いたします。

- 全てのモデルは 18 歳以上である必要があります。被写体となる人物本人が人物紹介やニュース報道の一環として登場する場合は、例外が認められます。撮影に被写体モデルが 18 歳未満であることが要求される場合、被写体を抱える代理店及び事務所は付添人を提供する必要があるため、代理店や事務所側は適用される児童労働法を含むあらゆる労働法の遵守を確保する必要があります。
- 写真、動画撮影中に遂行される仕事は全て、労働法、賃金・労働時間法、移民法などを含む適用法令を遵守している必要があります。
- 写真、動画撮影に参加する人はアルコールや違法薬物（認可されていない処方薬を含む）の影響を受けた状態にあってはならず、撮影が行われる敷地内でのアルコールや違法薬物の摂取（処方薬の乱用を含む）を固く禁じます。
- 撮影にヌード、体が透けて見えるような衣類、ランジェリー、水着、動物、薬物やアルコール摂取の演技、性的に挑発的なポーズなどがある場合、その撮影に関する説明を全ての関係者に伝え、写真の被写体となるモデルから、事前の同意を得る必要があります。また、撮影に参加する全員が、計画されているヌード撮影について通知を受ける必要があります。
- 着替え用のプライベートな空間は、撮影に参加する全てのモデルに用意される必要があります。
- 体が透けて見えるような衣類が使用される場合、写真の被写体となるモデルと事前の合意がない限り、適切な下着を提供する必要があります。
- 撮影もしくは撮影現場での肌の露出度に関し、被写体モデルが抵抗を感じる場合、撮影側は被写体を感じることを尊重する必要があります。本人が抵抗を感じるほど肌を露出するよう求めるプレッシャーを被写体には与えてはなりません。
- コンデナストは一貫して、作品の創造的及び美的決定権を所有する地位にあるものの、被写体モデル、また

CONDÉ NAST

JAPAN

はその代理人及び事務所、その他の担当者が抱く懸念に対して、敬意を持って考慮する必要があります。

- コンデナストの撮影に参加する写真家、メイクアップアーティスト、あるいはその他のコントリビューターとモデルが二人きりにならないことを推奨します。
- 撮影が行われている間（移動中や撮影の為に用意されたホテルなどの滞在場所も含む）、コンデナストから要求された場合を除き、写真家及び映像撮影者は、コンデナストの要請を受けて、またはコンデナストを通じて撮影に参加しているいかなる人も撮影してはなりません。

「コンデナストは、私たちの業界でセクシャルハラスメントを防ぐためにできる全てのことをしたいと思っています。これらの勧告を公にすることで、クリエイティブな業界に携わっている全ての人々が、安全な職場環境の創造に貢献するよう努めるだろう」とコンデナスト・インターナショナル会長兼 CEO のジョナサン・ニューハウスはコメントしています。

コンデナスト・インターナショナルとコンデナスト US は、2017 年 10 月からセクシャルハラスメントに対する対策を検討していると発表しました。以来、自社の編集者を含め、出版社や広報担当者、写真家、モデル、スタイリストやそれらの事務所など、クリエイティブプロセスのあらゆる段階に関わる代表者と 150 以上の会話を行いました。そういった十分な調査を行ったことにより、この行動規範に自信を持って市場に提示することができたといえます。コンデナストの社員は当然のことながら、コンデナスト・インターナショナルとコンデナスト US に関わる団体及び個人には、本行動規範が適応され、本内容が通達されます。また、行動規範の原則は、今月初めにニューヨーク・タイムズのニュース記事で発表しました。

コンデナストでは、行動規範の原則に沿って全ての撮影が確実に実施されるよう、各国で指名された行動規範の代表者が監督するプロセスが実施されています。誰かが行動規範のどれかに違反していると感じた場合は、その違反内容を報告することが出来る体制があります。上級管理職からなるコンデナスト・インターナショナル行動規範委員会は、各拠点に報告された違反内容を審査し、違反を犯したと思われる団体及び個人には、違反したとする内容に対して弁護する機会を与えます。その結果、委員会によりハラスメント事実が確認されたと判断した場合には、必要な措置が講じられ、コンデナストはその団体及び個人との仕事を直ちに終了します。

行動規範の実施は即座に始まります。今後コンデナストが主体となる撮影は、これらのガイドラインに従わなければなりません。

今日発表された行動規範に加えて、コンデナストの倫理規定も更新され、従業員と共有されています。コンデナストの倫理規定は、性的虐待やその他の虐待の種類を問わず、一切のいじめやハラスメントを許さないなど、プロフェッショナルとしての責任に関わる分野を網羅しています。

コンデナスト・ジャパンについて <http://corp.condenast.jp/>

コンデナストは、米国 Advance Publications の一部門として、『VOGUE』『GQ』『WIRED』『Condé Nast Traveller』『Vanity Fair』などのメディア・ブランドを、世界 29 の国と地域で、141 の雑誌と 100 以上のウェブサイト、タブレットならびにスマートフォン向けアプリとして、展開しています。媒体事業に加え、世界各国で実施している「VOGUE FASHION'S NIGHT OUT」「GQ Men of the Year」「WIRED CONFERENCE」、ロンドンで開講した「Condé Nast College of Fashion & Design」、レストラン事業なども拡大を続けています。日本では、コンデナスト・ジャパンによって、1999 年 7 月に創刊した『VOGUE JAPAN』をはじめ、『GQ JAPAN』『WIRED』『VOGUE Wedding』『VOGUE GIRL』などを手がけています。さらに日本では

CONDÉ NAST

JAPAN

プレミアム デジタル パブリッシャーとして「コンデナスト・ビデオ」にも注力し、コンデナスト各国や米国コンデナスト・エンターテインメント（CNÉ）と連携し、「Vogue Videos」や「Vogue Girl Video」「GQ Video」、そして日本初上陸のタイトルも含め 3,000 エピソード以上のオリジナルシリーズの制作・配給・配信をしています。

本件に関する報道関係の方からのお問い合わせ先

コンデナスト・ジャパン マーケティング&コミュニケーション部 菊井 TEL : 03-5485-9340 FAX : 03-5766-3010

「CNJPR_2018001」